

2005. 11. 30 アンケート結果



地域づくりコミュニケーション
— 農村振興局メールマガジン —

農林水産省農村振興局



■ 農村振興局メールマガジンのアンケート結果

日頃より「地域づくりコミュニケーション —農村振興局メールマガジン—」
にご協力頂きありがとうございます。

11月1日に実施しました当メールマガジンのアンケートには、たくさんのご回答をお寄せいただきありがとうございました。結果をお送りしますとともに、貴重なご意見を今後の参考にさせていただきます。

今後もよりよいメールマガジンにするため取り組んでいきたいと考えておりますので、ご意見・ご質問等をよろしく願いいたします。

◆ 今後の検討課題

1. 分かりやすい言葉・表現
2. 地域に身近なテーマの配信
3. 地域からの情報発信
4. テーマを絞った意見交換
5. アンケート方式等による意見送信の簡素化
6. 意見交換の場の提供
7. 幅広い方々へのメルマガの配信（ホームページ上でのメルマガの配信登録）

を検討課題として、引き続き編集・配信していきたいと考えています。今後ともご意見・ご質問をよろしく願いいたします。

◆ 結果の詳細

以下、「質問の選択肢」「回答者数」「比率（%）（四捨五入により必ずしも100%にはならない）」の順で標記しています。総回答者数は37人でした。

1. 当メールマガジンについて

- ①よく読む 21 (57)
- ②だいたい読む 14 (38)
- ③あまり読まない 2 (5)

2. 施策紹介の記事は分かりやすいですか。

- ①分かりやすい 20 (54)
- ②分かりにくい 6 (16)
- ③どちらともいえない 10 (27)
- 無回答 1 (3)

3. 施策紹介は、(1)農村における資源保全、(2)元気な地域づくり交付金、(3)美しい農村景観の保全・形成、をテーマとしていますが、このテーマについてどう思いますか。

- ①このままでよい 27 (73)
- ②テーマを追加して欲しい 9 (24)
- その他 1 (3)

- 農水省の大きな施策の動き
- アジア諸国との連携について
- 農山漁村の現状と問題点
- 持続可能な農業・農村（森林環境税創設の動きが続いているため）
- 関係する特区の全国展開
- 農地に関する法令改正や通達等の情報
- 元気な地域づくり交付金・資源保全施策の詳細な情報
- 農業に関するコミュニティビジネス
- 都市農村交流(グリーンツーリズム)
- 環境に配慮した事業
- 伝統文化を切り口とした農村コミュニティの再生事例
- 行政と企業・NPOとの協働

- 3つのテーマが同じ内容に感じる
- そもそもよくわからないので、新しいものを付け加えても同じ
- 読者への問いかけ形式による内容の絞り込みをしてはどうか

4. 施策紹介はあなたの業務や活動において参考となりますか。

①参考となる	28 (76)
②参考とならない	2 (5)
③どちらともいえない	6 (16)
無回答	1 (3)

5. 当メールマガジンへ意見・質問を送らなかった理由をお聞かせ下さい（複数回答可）。

①忙しい	18 (49)
②紹介記事に関心がない	3 (8)
③その他	22 (59)
無回答	2 (5)

- メールマガジン等で概ね内容が理解できるため
- 読者に当てはまる内容が少ないため
- 気軽さがないため
- 施策全般的なことを扱っており、具体的な意見が書きにくい
- 意見を出せるまでの知識や活動がないため

6. 読者からの意見等と農水省からの回答については参考となりますか。

①参考となる	31 (84)
②参考とならない	3 (8)
その他	1 (3)
無回答	2 (5)

- 回答に感謝
- 意見についての地域の背景が分からない
- 地域によっておかれている条件が異なるため、参考となるかは微妙
- 模範的な回答が多い
- 具体的な活動の中での質問や意見のはずだが、それが全然見えない

7. 当メールマガジンで双方のコミュニケーションを深めるにはどのような方法がよいと考えますか（複数回答可）。

①もっと情報の範囲を増やす	6 (16)
②配信先を増やす	12 (32)
③地域からの情報発信を増やす	16 (43)
④その他	15 (41)

- 意見を『提案』、要望を『声』という言葉に変えただけでも気持ちが違ってくる。もっと柔らかく、聴く態勢をとるべき
- 一般の視点に立った平易な言葉で記述すべき
- 日々の担当官の思いや感想を記述し、距離を近づける
- 具体的な案件に対して明確に意見を求める
- アンケートのような聞き取り方式により、意見送信を簡素化する
- 農水省ホームページから配信登録（対象を一般化）できるようにする
- ハンドルネームによる書込み形式・皆で考えるようなコミュニケーションの場の提供
- 今のような内容なら、①②をやっても同じ
- そもそもメルマガで双方向のコミュニケーションを求めるのは無理がある

8. 内容量について

- ①ちょうどよい 32 (86)
- ②多い 5 (14)
- ③少ない 0 (0)

- あまり長いと最後まで目を通す人も少なくなる
- 1回ごとにテーマを絞ってコンパクトに、インパクトのある構成で
- 月1回の発行ではボリュームも大きくなり、質問にきめ細かく対応できない
- メルマガ上にリンクがあっても、ダイヤルアップ回線の地域ではなかなかリンクまで見ようとしないため、メルマガにある程度情報が掲載されていると助かる

9. 発行周期について（現在、月1回発行）

- ①ちょうどよい 34 (92)
- ②多い 0 (0)
- ③少ない 3 (8)

- 施策ごとに分けて、少ない内容で月2～3回の方がよい
- 月2回くらい配信してほしい

10. その他、当メールマガジンに対してご意見・ご感想がありましたらお書き下さい。

- とても参考になりますので、今後も継続を
- 中央官庁の情報がタイムリーに入り、大変便利
- 配信されるようになってから、農林水産省のホームページを開く回数が増えた
- 本趣旨は非常によいと思うので、さまざまな意見が集まる工夫を
- 「体験交流」「物販(特産物)」・・・等、内容を現場に即した形で分けて掲載してはどうか
- 継続的に情報提供いただくうちに発言できる機会もあるのでは
- 総論的には伝わるが、現場に落とした場合どうなるのかが伝わりとよい
- 役所の用語で書いてあるので、とっつきにくく「読みたい」という気持ちになかなかならない
- 読者の現場に出かけてきて取材してはどうか
- 「個人的にはこう思う」というメルマガはやっぱ読み応えがある。個人的には、JMMという村上龍のメルマガは内容的に重く、しかしなるほどというようなものであり、そのような方向性を期待
- 施策の紹介など自治体職員や農業団体等関係する事業に携わっている人にとっては大変に有意義だが、非農家や極めて厳しい条件下の山間地の小規模農家などの人にとっては意見が出しにくいいため、都市住民からも意見を求めたらどうか

- 農地・農業用水・農村自然環境について、都市住民と農家に「共有の財産観」がないため、メディアを通じキャンペーンを行う必要があるのではないか（広報宣伝が必要）
- 中山間直接支払制度も資源保全施策において、受ける側に立って考えてみた時、与えられるものを受けだけの形になったら、集落や地域の協定が人をつなぐはずのものが、逆に今まで地域が築き上げてきた連帯意識や掟が崩れ去ってしまう、そんな気がしてならない

◆◇ 編集発行 ◇◆

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局企画部農村政策課（担当）矢野

TEL:03-3502-5946 FAX:03-3595-6340 E-mail:nouson_mm@nm.maff.go.jp
